

①三島－御殿場線

三島駅～裾野駅入口～御殿場駅（富士急モビリティ）

運行目的(役割)

- ◆ JR御殿場線沿線を運行(補完)し、御殿場駅・裾野駅三島駅の主要駅を繋ぐ広域幹線。
- ◆ 沿線には学校・病院・企業が多く存しているため、通学・通院・通勤を中心とする市間を跨ぐ生活移動を資することを目的に運行。
- ◆ また、静岡県外を結ぶビジネス移動や観光移動の交通結節点である新幹線三島駅、JR御殿場駅から県内への移動手段として広域移動の円滑化及び地域内の活性化を図ることを目的とし運行している。

運行の状況



◆ 運行回数・運行距離

	運行回数			運行距離
	平日	土曜	日曜	
往路(御殿場駅→三島駅)	6便	6便	6便	21.8km
復路(三島駅→御殿場駅)	4便	4便	4便	

◆ 収支の状況

年度	年度	利用者数	運行経費(A)	運賃収入(B)	欠損額(B-A)	補助額			バス事業者負担額	備考
						国庫補助	県補助	市補助		
令和3年度	2021年度	43,539人	32,182千円	10,330千円	▲21,852千円	4,225千円	4,225千円	3,958千円	▲9,444千円	
令和4年度	2022年度	48,201人	33,585千円	13,712千円	▲19,873千円	5,248千円	2,961千円	3,958千円	▲7,706千円	
令和5年度	2023年度	59,375人	36,488千円	24,341千円	▲12,147千円	3,079千円	3,079千円	3,958千円	▲2,031千円	(見込)

◆ 利用人員

平日1日あたり約138名の利用

◆ 地域間利用の状況

- ◇ 三島市内⇒御殿場・裾野市内 平均65名/日
JR「裾野駅」「岩波駅」への接続、近隣市内の病院等への通院、通勤及び通学
- ◇ 御殿場・裾野市内⇒三島市内 平均32名/日
JR「岩波駅」「裾野駅」への接続、三島市内事業所への通勤及び通学

◆ その他

- ◇ 利便性向上と運行効率化を目的に裾野駅乗入予定(R6.4.1～)

②十里木線

御殿場駅～須山～十里木（富士急モビリティ）

◆ 運行目的(役割)

- ◆ 御殿場市と裾野市の須山地区を結び、通学・通勤・買い物等広域利用がある基幹路線である。
- ◆ 高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段を提供。
- ◆ 十里木地区から須山小学校への通学の足となっている。
- ◆ また、十里木地区・須山地区からの通学需要や、鉄道・他の公共交通機関への接続によるネットワークを構成する要素となっている。

◆ 運行の状況



◆ 運行回数・運行距離

	運行回数			運行距離
	平日	土曜	日曜	
往路（御殿場駅→十里木）	6便	6便	6便	19.1km
復路（十里木→御殿場駅）	6便	5便	5便	

※うち往路の5便と、復路の4便は富士サファリパークを經由

◆ 利用人員

平日1日あたり約110名の利用(前年比15名増)

◆ 地域間利用の状況

- ◇ 御殿場市内⇒裾野市内 約22名/日
十里木行きのバスで降車が多い停留所は①富士サファリパーク②十里木③板妻
特に目立つのがサファリパーク(動物園への観光目的利用者)
- ◇ 裾野市内⇒御殿場市内 約15名/日
御殿場駅行きのバスで降車が多い停留所は①御殿場駅②川島田③川島田南口
サファリパークからの乗車が大半だが、十里木地域の方が川島田(病院)、川島田南口(ドラッグストア・日用品店)を利用する為の生活利用が見られる。

◆ 収支の状況

年度	年度	利用者数	運行経費(A)	運賃収入(B)	欠損額(B-A)	補助額			バス事業者負担額	備考
						国庫補助	県補助	市補助		
令和3年度	2021年度	31,403人	35,514千円	8,780千円	▲26,734千円	5,177千円	5,177千円	0千円	▲16,380千円	
令和4年度	2022年度	36,971人	36,447千円	12,239千円	▲24,208千円	7,669千円	5,465千円	0千円	▲11,074千円	
令和5年度	2023年度	46,806人	39,182千円	16,857千円	▲22,325千円	1,425千円	1,425千円	0千円	▲19,475千円	(見込)

沿線施設名称

JR御殿場駅、フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、原里中学校、原里小学校、原里支所、板妻駐屯地、須山支所、須山小学校、裾野富士山資料館、クラボウ、ビオパーク、富士裾野工業団地、東海ゴム、JAなんすん、須山浅間神社、富士サファリパーク